

フォスタリングチェンジ・プログラム 2023年度実施報告



一般社団法人 無憂樹

はじめに	01
フォスタリングチェンジプログラムについて	02
プログラムの概要	03
2023年度実FCP施状況の概要	05

実施報告書

● フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道	07
● フォスタリングチェンジ・プログラム in青森県	08
● フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手県	09
● フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木県	10
● フォスタリングチェンジ・プログラム in東京都	11
● フォスタリングチェンジ・プログラム in東京都	12
● フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県	13
● フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県	14
● フォスタリングチェンジ・プログラム in富山県	15
● フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨県	16
● フォスタリングチェンジ・プログラム in長野県	17
● フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡県	18
● フォスタリングチェンジ・プログラム in三重県	19
● フォスタリングチェンジ・プログラム in京都府	20
● フォスタリングチェンジ・プログラム in京都府	21
● フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪府	22
● フォスタリングチェンジ・プログラム in広島県	23
● フォスタリングチェンジ・プログラム in山口県	24
● フォスタリングチェンジ・プログラム in佐賀県	25
● フォスタリングチェンジ・プログラム in長崎県	26
● フォスタリングチェンジ・プログラム in熊本県	27
● フォスタリングチェンジ・プログラム in大分県	28
ファシリテーターフォローアップミーティング	29
プログラムに関する里親の評価	30
総括2023年度の実践と今後の課題	33

フォスタリングチェンジ・プログラムと事務局のこれから

| 一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは2016年に、日本で最初の養成講座が開催され、それから8年余が経ちました。FCP養成講座を受講した数も300名近くなり、36の自治体にまで広がりました。実施自治体につきましても、2020年度以降はコロナの影響で微減となりましたが、2022年度、2023年度と実施回数も回復してきております。2023年度には22か所、そして複数実施した地域もあるため25回のフォスタリングチェンジ・プログラムが開催されました。成果につきましても、毎年出している年次報告書に見られますように、プログラムに関する里親の評価は非常に高く、里親参加者の出席率も軒並み高い水準となっています。これはひとえに、FCPファシリテーターの皆様のご努力と里親のみなさまの実践の結果であると思ひますし、同時にこのプログラム内容の素晴らしさだと思ひます。

FCP養成講座に目を向けますと、アンケートの集計結果を見ても肯定的な変化が起こっております。中でもこの3か月間で関係性の変化が見られる、ということは特筆すべきことだと思ひますし、フォスタリングチェンジ・プログラムの素晴らしさであり、また里親さんの日々の関りの賜物だと思ひます。そして忘れてはならないのは、こどもの持つ本来の力だと思ひます。こどもが持つ力を、養育者の適切な関りによって、より良い方向に向けられるよう変化を促す、それがフォスタリングチェンジ・プログラムなのだと思ひます。

無憂樹は今、フォスタリングチェンジ・プログラムを長年支えてくださった日本財団からの助成が終了し、自立の道を模索しているところです。養成講座につきましても、オンラインと対面を組み合わせた、ハイブリッド型のスタイルにして、より参加しやすいようにしたり、この報告書につきましてもオンラインでの配布になりますが何とか継続できるように取り組んでいます。おかげさまでフォスタリングチェンジ・プログラムのファシリテーター数も、実施自治体も順調に増加しています。これもひとえに、現場で里親家庭を支えてくださっている皆様や関係者の皆様のおかげだと思ひます。今後、ただ回数を積み重ねるだけではなく、現場の皆様の元へより良く届ける方法を考え、このフォスタリングチェンジ・プログラムの灯を絶やすことなく、里親家庭、そして子どもたちの元へ届けるべくこれからも、日々精進して生きたいと思ひます。

最後になりましたが、改めて4年間フォスタリングチェンジ・プログラム事務局に多大なご助成をいただいた日本財団に感謝申し上げますとともに、いつもあたたかく支えてくださる松崎先生、上鹿渡先生、そしてトレーナーの皆様、並びに全国のファシリテーターの皆様、里親の皆様、子どもたちに感謝を申し上げて、第8回目の報告書をお届けさせていただきます。



フォスタリングチェンジ・プログラムについて

早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和弘

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村 JAPANと福岡市が連携し、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡市で実施され20名のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からもたいへん好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができることがわかりました。その後、全国各地でファシリテーター養成コースが開催され、2019年8月には福岡市で日本人トレーナーによる養成コースを初めて実施し、全国22か所でプログラムが実施されました。

さらに、現場から要望の多かった思春期版プログラム(12+)についても、2020年度に福岡市で初めて実施しました。新型コロナウイルス感染が拡大する中、当初はファシリテーター養成コースや里親向けのプログラムも中止・延期となりましたが、年度後半からは十分な感染対策を実施しながら里親向けプログラムを対面実施できた地域もありました。また、ファシリテーター向けのフォローアップミーティングをリモートで開催し、その経験も生かしてファシリテーター養成コースと12+養成コースもリモートで開催するようになりました。フォローアップミーティングについては全国からの参加がしやすくなり、参加人数も多く内容も充実し、感染収束後もリモートでの開催を継続しています。2021年度も感染状況落ち着かず制限はありましたが、全国13か所でプログラムが実施され、2022年度は、全国18か所で21グループに実施され(年に2回、3回の実施例あり)、全国で107名がフォスタリングチェンジ・プログラムを受講しました。このように感染拡大状況の中にあっても実施可能な形を模索しながら検討が続けてきたことによって、部分的にオンラインでの実施も考えられるようになるなど、本プログラムの今後の発展にとって大きな良い影響もに及ぼ

したと考えています。2023年度は、全国22か所で25グループに実施され(年に2回、3回の実施例あり)、全国で126名がフォスタリングチェンジ・プログラムを受講しました。

2024年度には都道府県社会的養育推進計画が各地で策定され、これまで以上に里親養育の質の担保に向けた取り組みが求められることでしょう。フォスタリングチェンジプログラムの実施機関はそれぞれの地域で、これからの里親養育支援を中心的に担われることも多いと考えられ、フォスタリングチェンジ・プログラムの実践がこれまで以上に必要とされることでしょう。プログラムで習得する多くのスキルの中でも鍵となる「アテンディング」では、子どもと養育者が「いっしょにいること・ともにいること」を短時間でも毎日確実に実施します。アテンディングは、子どもにとって大事な時間となり、子どもと養育者の間に「ともにいる」大切な関係が構築されます。里親養育の中でも最も重要な安定したアタッチメント形成にあたって大変効果的な方法です。2023年12月に閣議決定された

「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」には「幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に幸せな状態)の向上にとって最重要」であり、そのためには「アタッチメント(愛着)」の形成と豊かな「遊びと体験」、つまり「安心と挑戦の循環」が不可欠なことが示されています。アテンディングによって、この安心と挑戦の循環も実現されると考えられます。

フォスタリングチェンジ・プログラムにはアテンディングの他にも、里親養育が「子どものために」に留まらず、「子どもとともに」あることができるよう、具体的な方法がいくつも示されています。里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化につながることを期待しています。

¹フォスタリングチェンジプログラム実施者には里親養育支援におけるアタッチメントの理解と対応について、S・ジリアン他著、御園生他監訳『アタッチメント・ハンドブック里親養育・養子縁組の支援』2022(明石書店)をぜひ参照し理解を深めていただきたい。

²こども家庭庁ホームページ https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi/

フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基づき、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験（RCT）が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つの要素からなっている。

■ 通常版

養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「肯定的な注目」がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。

- ① 関係を強化する～褒めめる、アテンディング（肯定的注目）、代替行動の選択、有形の報酬、ご褒美表、遊び
- ② 教育～子どもの学習の支援、宿題戦略、子どもの読書を助ける、学校との連携
- ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ（私は）メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
- ④ ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

■ 思春期版

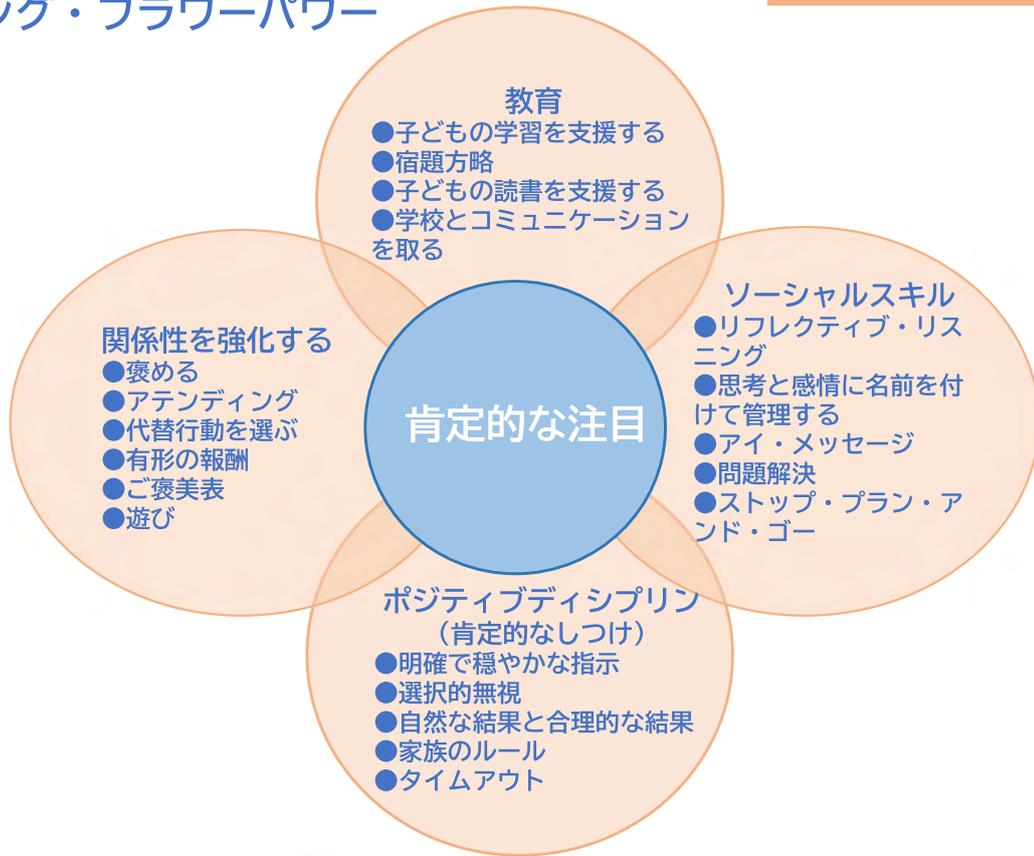
養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「ポジティブな世話/注目」とともに、思春期特性への理解としてアタッチメントとレジリエンス（回復力）がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。

- ① 関係性を強化する～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
- ② 教育～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
- ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
- ④ ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

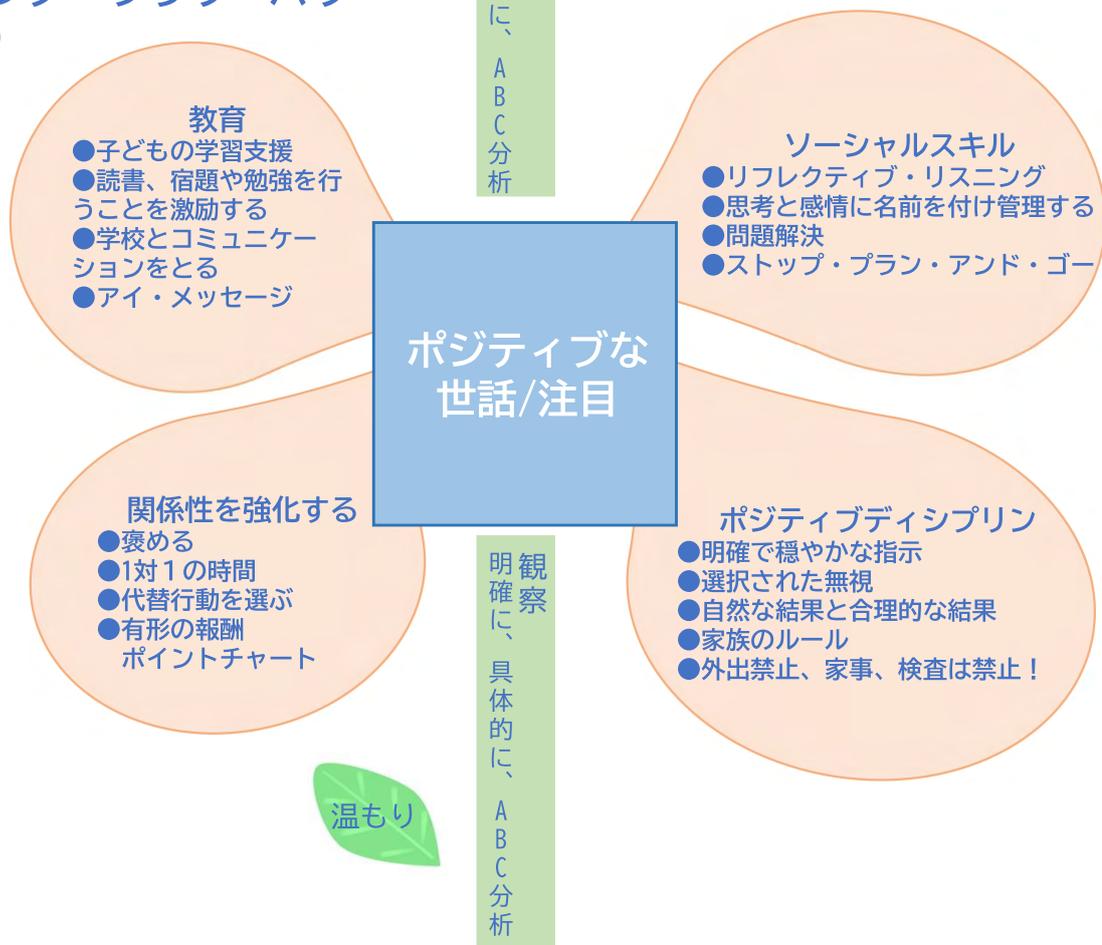
さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

フォスタリング・フラワーパワー
(通常版)



フォスタリング・フラワーパワー
(思春期版)



2023年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

| SOS子どもの村JAPAN/広島国際大学 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラム（以下FCP）は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度に福岡と熊本でスタートし、2019年度は、全国22ヶ所での実施と広がっていました。

しかし、2020年からの新型コロナの流行により、各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況が続いてきていましたが、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、若干実施地域が増えてきており、今年度は、全国22地域で25回実施されました。2地域で複数回実施されています。また、参加しやすいように土曜日の実施に取り組んだ地域もあります。詳細は、表1及び各地報告をご参照ください。思春期版は1地域での実施となっています。

ファシリテーター養成講座は、通常版養成講座（4日間）を9月、長野県のご協力のもと県内の関係機関を対象にオンラインで実施しました。特定地域を対象とした養成講座は初めての試みでした。また、1月末から2月初旬2日ずつ前期を対面で、後期をオンラインで実施しました。

思春期版養成講座（1日）は、通常版を2回以上経験したファシリテーターを対象に3月にオンラインで実施しました。

ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより8月、10月、12月、1月と4回実施しました。



2023年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
北海道	9月～12月	8名（養育里親6名、養子縁組2名）	フォスタリングセンター
青森	5月～8月	4名（養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名）	乳児院
岩手	9月～11月	6名（養育里親5名、養子縁組里親1名）	福祉総合相談センター
栃木	9月～11月	6名（養子縁組6名）	フォスタリングセンター
東京	9月～12月	5名（養育里親3名、ファミリーホーム2名）	乳児院
東京	9月～12月	2名（養育里親2名）	乳児院
神奈川	9月～11月	6名（養育里親4名、養子縁組2名）	里親会
神奈川	10月～翌3月	5名（養育里親2名、養子縁組3名）	里親養育包括支援センター
富山	11月～翌3月	8名（養育里親2名、養子縁組6名）	児童家庭支援センター
山梨	1月～4月	4名（養育里親4名）	社会的養育機関
長野	9月～11月	3名（養育里親1名、養子縁組里親1名、他1名）	フォスタリングチーム
静岡	5月～7月	6名（養育・養子縁組里親5名、他1名）	里親支援機関
三重	1月～3月	4名（養育里親1名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名、親族里親1名）	里親なんでも相談所
京都	10月～12月	4名（養育里親1名、養子縁組2名、ファミリーホーム1名）	家庭支援総合センター
京都	6月～10月	4名（養育里親1名、養子縁組1名、FH養育補助者1名、他1名）	里親支援機関
	1月～3月	3名（養育里親1名、養子縁組1名、FH養育者1名）	
大阪	5月～7月	5名（養育里親3名、養子里親2名）	里親子支援機関
	9月～11月	5名（養育里親5名）	
	9月～11月	6名（養育里親4名、養子里親2名）	
広島	9月～11月	6名（養育里親1名、養子縁組4名、ファミリーホーム1名）	児童相談所
山口	9月～12月	5名（養育里親2名、養子縁組1名、他2名）	山口県子ども家庭課
佐賀	10月～翌1月	4名（養子里親2名、養育里親1名、ファミリーホーム補助1名）	里親支援機関
長崎	9月～12月	7名（養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組4名）	里親支援機関
熊本	9月～11月	6名（養育里親5名、養子縁組1名）	フォスタリングチーム
大分	10月～翌1月	4名（養育里親4名）	乳児院

2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道

社会福祉法人 常徳会興正フォスタリングセンター
統括責任者 小野 実佐
里親トレーナー 佐藤 慧

- 【実施主体】 社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター
- 【実施期間】 2023年9月15日～12月8日（毎週金曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】 8名（養育里親6名、養子縁組2名）
出席率98%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、オブザーバー1名、保育2名
- 【フォローアップ】 2024年2月2日

○実施状況

札幌市でフォスタリングチェンジプログラムを開始してから6年が経過した。市内の里親には、これまでの参加者からの評判と共にプログラムの認知度は高くなりつつある。

今回の参加者は、家族や里親仲間などこれまでの参加者に勧められて受講を希望した方に加え、当法人が新規登録研修から里親の人柄を理解しマッチング支援を実施した方、当法人で開設された一時保護専用施設にてマッチング・交流支援を経て里子の委託を受けられた方も参加している。この背景には、当法人で里親登録作業を担っていることで、登録前から里親家庭と知り合うことができ、委託開始間もない時期など里親が学びを求めるタイミングでプログラム参加を勧めることができたという状況がある。

こういった委託当初という一番支援が求められる時期に、FCPのスキルや技術の学びと共に、週1回必ずプログラムで顔を合わせることで、より細やかに委託当初の里親の葛藤や悩み、子育ての楽しみに寄り添うことができることに繋がったと感じた。

○プログラム時に工夫したこと

今までの実践は、これまでで最も人数が多かったため、時間内に全員が語れるよう時間配分に配慮した。コロナが明け、参加者同士の物理的距離も近くなったことから、横の繋がりを大切にできるように、参加者の悩みについてグループみんなで共有して考える時間を増やしたり、同じ葛藤を抱えている里親同士を繋ぐことを工夫した。

○まとめと課題

登録前から委託後まで継続的に関わることは、プログラム開始前から里親家庭が持つ価値観や考え方に触れる機会が多く、ファシリテーターがこれまで以上に里親家庭を理解した上で、参加里親を迎えることができる。そのため、家庭での実践に関する振り返りを行う時間などプログラム内の様々な場面において、各里親子の背景に添いながら学びを深めることに繋げることができたと感じた。

例年同様、今回の参加満足度も高く、里子の肯定的変化と共に里親自身の変化を実感している。特に達成できた変化として多く聞かれたのは、「感情的にならずに言葉で伝えることを学んだ」「イライラしてなるべく落ち着こうと自分に言い聞かせるようになった」「感情的になる前に一息おくことができるようになった」「イライラすることが減った」という、感情コントロールの変化であった。札幌におけるFCP卒業生もこの6年で30名近くになり、今後は卒業生同士が横の繋がりを築く場の提供を検討していきたいと考えている。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in青森

若葉乳児院/フォスタリング事業わかば 小笠原 真寿美 長内 顕子
児童養護施設美光園/里親支援専門相談員 木村 優

- 【実施主体】 社会福祉法人藤聖母園 若葉乳児院
- 【実施期間】 2022年5月29日～2023年8月15日（毎週火曜日） 9:00～12:00
- 【実施場所】 社会福祉法人藤聖母園 フォスタリング事業わかば事務所
- 【参加里親】 4名（養育里親2名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名）
出席率96.4%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名
- 【フォローアップ】 2022年度受講生対象
2023年5月16日（火）10:30～12:00

○実施状況

今年度は、別な会場で行う計画を進めていたができなくなり、急遽再び青森会場で行うこととなったため、案内時期が短く、参加のキャンセルも続いたため、新たな受講者1名のみでの参加となった。グループ討議が困難なため、昨年の参加者からもまた学びたいという要望もあり、復習の参加者と一緒に参加しスタートした。今年度から新たなファシリテーターが1名増えた。また別のファシリテーターは遠方から毎週駆けつけて協力してくれた。セッションのリーダーも前半後半と分けて交代で行った。里親はほぼ休むことなく参加され、セッションの回数が増すごとに里親の学ぶ熱量も上がっていった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・今回もコロナ感染予防のために、各自体調の管理、検温、マスク着用、手指の消毒を徹底した。
- ・水分補給とお菓子は、個別包装のものを用意した。
- ・課題を持ち帰る際には、分かりやすいように細分化して説明し、例題を一度体験してもらい、理解できたことを確認してから持って帰ってもらった。
- ・小さい疑問や分からないことが出た時は、すぐ他の参加者だったらどう考えるか一緒に話し合い、そのままにしないようにした。



○まとめと課題

初めはどの里親も緊張、または疑心の様子で参加するが、セッションの回数が進むにつれ、里親の表情がどんどん明るくなっていくのが感じられた。これまでの子育ての苦しみが、里親自身の自信と喜びに変化していく経過を見ていると、このプログラムのすばらしさを感じる。今後も参加した里親同士が里子への共通認識でつながり、協力体制が強くなる要因の一つになれるよう継続していきたい。今年度、新たにファシリテーターが1名増えたことで、プログラムを進めていくうえでとても動きやすかった。次年度、管轄児童相談所も参加の希望があるので、また新たな取り組みとして考えていきたい。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手

里親支援センターぜんゆう 阿部 恵 佐々木貴保
一関藤の園 佐藤 道也
大洋学園 志田 真理子
和光学園 斎藤 あずさ 遠藤 咲乃

【実施主体】 岩手県福祉総合相談センター 里親支援センターぜんゆう
【実施期間】 2023年9月5日～2023年11月21日（毎週火曜日）10：00～13：00
【実施場所】 岩手県立生涯学習推進センター
【参加里親】 4組6名（養育里親5名、養子縁組里親1名）
出席率97.2%
【参加体制】 ファシリテーター6～8名、スタッフ1～4名 児相職員1～3名
【フォローアップ】 2024年2月27日

○実施状況

県内3会場目の開催。養育上の困り感が少ない受講者であったが、3カ月間も里親子育てをじっくり話し合う機会には他では得られないため、満足度としては高かったように感じている。

○まとめと課題

チーム岩手としてのスタイルが確立したことを実感するとともに、里親支援の本来業務とのバランスが大きな課題である。

○プログラム時に工夫したこと

ファシリテーターの人数が増えたことにより、役割を細かく分けてそれぞれの視点で観察しながらセッションを進め、受講者一人ひとりに対して丁寧な働きかけを実施し、チームとしての絆を深めることが出来た。また役割を固定しないことで、誰がどのポジションに入っても問題なく、安定した運営が実現している。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木

とちぎ家庭養育推進協議会 畠山 憲夫
 栃木フォスタリングセンター 赤羽 朋子
 児童養護施設きずな 堀江 美景
 児童養護施設桔梗寮 伊藤 幸恵
 認定NPO法人だいじょうぶ 畠山 由美

【実施主体】 栃木フォスタリングセンター
 【実施期間】 2023年9月5日～2023年11月28日（毎週曜日） 10：00～13：00
 【実施場所】 とちぎ福祉プラザ（栃木県宇都宮市）
 【参加里親】 6名（養子縁組6名）
 出席率80.5%
 【参加体制】 ファシリテーター5名
 【フォローアップ】 2023年6月20日（2022年修了生）

○実施状況

当初9名の応募があったが、3名は仕事都合の為参加できず、結果6名での開催となる。ファシリテーターは同じメンバーで3回目の実施。毎回2名ずつファシリテーターをローテーションし、茶菓子の購入や配布物の準備など役割分担した。

セッション終了後は昼食を取りながら振り返りをし、次のセッションの準備、打ち合わせをした。ファシリ同士の信頼関係が当日の温かい雰囲気をつくった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・ファシリテーターが多い為、セッション当日は担当以外のファシリテーターも傍観者にならず、ロールプレイやシール配布等、自然な形でグループに入るようにした。
- ・セッション内容を分かりやすくイラストでまとめた通信を配り、参加者の理解が深まるように努めた。
- ・参加者同士の交流を大切にした。茶菓子の種類を増やしたり軽食も用意し、温かな雰囲気を作った。
- ・お休みの参加者にはすぐに資料を送付し、電話やズームでフォローした。



○まとめと課題

受講者が積極的にプログラムに参加し、家庭での実践に前向きに取り組んでいた。全員が養子縁組里親で、乳幼児時期より養育されており、意気投合していた。それぞれに、子どもの問題行動に困っていたが、スキルを学び実践する中で変化が見られた。

これまで、FCPの実践を平日に開催していた。しかし仕事を理由に参加を断念される里親さんもいた為、今後は特に12+の募集の時には、土日開催を検討する必要がある。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
長田 淳子 宮内 珠希 藤本 和紗 佐藤 裕子

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 2023年9月14日～2023年12月14日（毎週木曜日）10:00～13:00
※10月6日、11月23日除く
- 【実施場所】 二葉乳児院法人本部3階会議室（11回）東医健保会館（1回）
- 【参加里親】 5名（養育里親3名、ファミリーホーム2名）
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1名、オブザーバー8名
- 【フォローアップ】 令和6年6月に実施予定

○実施状況

参加者は、モチベーションが高く、全員が予定を調整して、全ての回に積極的に参加された。

二葉乳児院の担当管内だけでなく、都内全域が対象だったこともありお互いを知らない参加者がほとんどだった。当初は緊張感もあったが、5名と少人数だったこともあり、15分の休憩時間に各々が話しをする時間が持つコミュニケーションを重ねることでお互いに安心感を持って、日々の養育での悩みなどを話す様子が見られた。

家庭での実践のテーマ決めに悩む参加者に対して、参加者同士でアイデアを出し合ったり、励ましあったりする姿が見られた。今回のプログラム終了後も交流が継続できそうなグループとなった。

○プログラム時に工夫したこと

基本はファシリテーター3名で進めた。1名が前半、1名が後半、1名が前半後半を通してのサポートする役割をした。必要に応じて、SVのファシリテーターに助言を得た。

知的障害がある児童を養育している参加者が、家庭での実践ができるように、視覚支援ツールなどの提供を行った。

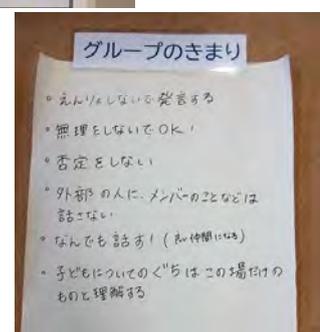
わかりづらい理論を説明する補助資料としてまとめたものを壁に掲示をし、必要であれば写真を撮れるようにした。

○まとめと課題

委託中の学齢児が、FCPでアテンディング時の遊びとして推奨されている遊びを好まず、家庭での実践の活動選びの助言に苦労した。

ロールプレイや家庭での実践で、こちらの意図することと参加者の受け止めにズレが生じてしまうことがあった。経験値や養育に対する考え方、現在抱えている課題など様々な参加者に、プログラムで扱うテーマとの関連性や違いを整理する力がファシリテーターには求められており、その力を培う必要性を感じている。

それぞれが語りたこと、そこから派生する質問も多く、丁寧に対応しようとすると時間が15分程度延長してしまうことが複数回あった。参加者がその回を満足して終わることができて時間通りに終われるようにすることが課題と感じている。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in東京

社会福祉法人愛恵会乳児院
小林 高史 佐藤 智美 及川 和華子

- 【実施主体】 社会福祉法人愛恵会乳児院
- 【実施期間】 2023年9月14日～2023年12月21日（毎週木曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】 愛恵会乳児院
- 【参加里親】 2名（養育里親2名）
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名

○実施状況

初めての実施ということで、しっかりとプログラムを完遂できるかという不安があったが、どうにかやり切ることができた。不特定の里親さんに参加を募るという方法をとらず、これまでのコミュニケーションが比較的円滑な方に声をかけた。

2名という少人数であったが、その分参加者同士・ファシリテーターとのやりとりは多く、笑いも多く交えながらの実施となった。

○プログラム時に工夫したこと

2名の内片方の里親が欠席せざるを得なくなった場合など、双方と相談してプログラムを1週スキップしたりするなど柔軟に対応した。

○まとめと課題

5名以上の参加者がいても実施できるだけの広い会場を、安定的に確保することが難しい。またファシリテーターを増やして、今後も継続して実施できる体制を敷くことが必要である。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

相模原市里親養育包括支援センター
平山 みゆき 内山 博子 富永 達彬 長田 順子

- 【実施主体】 相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら
- 【実施期間】 2023年10月24日～2023年3年16日(毎週火曜) 10:00～13:00
- 【実施場所】 相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら
- 【参加里親】 5名(養育里親2名、養子縁組3名)
出席率93%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、保育3名

○実施状況

相模原市で初めてフォスタリングチェンジ・プログラムを開催した。募集方法は、市内全里親にチラシで案内し希望者を募った。体験会等実施していないため、フォスタリングチェンジプログラムについて具体的なイメージが持てなかったと思うが、それでも自発的な5名の申込があった。

ファシリテーター全員が初心者であったため、ひとつひとつが試行錯誤であったが、企画、運営、会場、保育等、すべてを一事業所スタッフで行ったため、開催に向けての相談、打ち合わせ、準備等は進めやすかった。年度途中で企画したため、連続した同一曜日で日程を確保することが難しく、開始から終了まで4か月半かかってしまったが、参加者もリタイヤすることなく全員そろって修了することができた。

○プログラム時に工夫したこと

参加里親は、もともと顔見知りの仲であり、すぐに友好的なグループが出来たため、開始までの時間、休憩時間等は、敢えてファシリテーターは加わず、グループメンバー水入らずの時間にしたところ、プログラム開始前のティータイム等も楽しみに早めに来所されるようになった。

また、プログラム終了後は部屋を解放し、ランチできるようにし、里親間の交流の場を提供した。欠席者への補講のスタイルは、来所、訪問、電話、ZOOMを用意し、里親が受講しやすい方法を選べるようにした。結果は、全員来所での補講を希望した。



○まとめと課題

初回フォスタリングチェンジ・プログラムは試行錯誤の中で開始したが、参加者のグループ意識や学習意欲を切らさず、誰一人欠けることなく修了できたことが、ファシリテーターにとっての成功体験となった。

一方で課題も多く、プログラム全体への深い理解(他のファシリテーターが担当するセッション内容の理解が不足していた)、家庭での実践の扱い方(各家庭で具体的にどう進めるか、子どもにどう説明するか等を予め詰める必要があった)、分かりやすい説明方法の工夫、時間の管理、ロールプレイの扱い方等については、改善が必要であるため、次回開催時にはこれらを改善しグレードアップできるようにしていきたい。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in横浜

一般社団法人 こどもみらい横浜

- 【実施主体】 こどもみらい横浜(横浜市委託事業)
 【実施期間】 2023年9月7日～11月30日(毎週木曜日) 10:00～13:00
 【実施場所】 横浜万国橋会議センター
 【参加里親】 6名(養育里親4名、縁組里親2名) 横浜6期生
 【参加体制】 ファシリテーター3名
 福島里美(こどもみらい横浜:臨床心理士、公認心理師)
 野澤実希(こどもみらい横浜:臨床心理士、公認心理師)
 宮地恵子(こどもみらい横浜:里親支援員)
 【フォローアップ】
 2024年2月1日(木) 10:00～13:00 5期生
 2024年2月29日(木) 10:00～13:00 6期生

○実施状況

- ・普段はサロン等に参加しない里親が何名かおり里親同士の横の繋がりを持つことができ安心して相談をする関係ができた。
- ・回を重ねるごとにFCP受講者同士が打ち解け、里親サロンでも話せない内容を共有することができた。
- ・各里親の課題に対して、参加者全員が親身になり傾聴する姿勢があり、それぞれの経験からよりよく関わるためのアドバイスをする場面が多く見受けられた。
- ・FCPのセッションのみでは対応が困難な内容に対しては福島心理士が中心となり具体的なアドバイスを行うことで寄り添いながら解決に向かうことができた。

○プログラム時に工夫したこと

- ・里子の体調不良等で外出が難しい場合は自宅で研修を受けられるようにZOOMにて会場と繋ぎ参加してもらったり、録画をして改めて視聴できるようにする等の対応をした。
- ・困難な課題を抱えている里親に対する対応策について振り返りの場面で情報交換を行った。
- ・明るい気持ちで参加できるように会場の装飾の工夫をし、カフェコーナーを充実させることで息抜きする時間を設けた。

○まとめと課題

- ・里子の体調不良や学校行事等で欠席する受講者がいたが、資料の郵送、電話、録画、視聴でのフォローを行い、欠席した回の内容について充分理解されている様子が伺えた。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in富山

児童家庭支援センターaid 本江 裕子

児童家庭支援センターaid 本江 亜耶子

- 【実施主体】 一般社団法人ストレングス 児童家庭支援センターaid
- 【実施期間】 2023年11月26日～2024年3月17日（毎週日曜日） 9:30～12:30
- 【実施場所】 児童家庭支援センタープレイルーム内
- 【参加里親】 8名（養育里親2名、養子縁組6名）
出席率70%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ1名、オブザーバー1名、保育3名

○実施状況

今年度初めての開催であったが、プログラムが進むにつれ受講されている里親の紹介にて数名の新たな受講希望者があった。プログラム期間中、令和6年1月1日に能登半島地震が発生した為日程を修正し実施した。特に地震後すぐのセッションでは、里親一人一人が地震体験を話したり、オブザーバーより震災体験後の子どもへの対応についての助言を聞いたりする時間を設け子どもや里親の心のケアに努めた。

プログラムを重ねる事に里親同士のロールプレイングが円滑になり、お互いが打ち解け合う事で悩みや心配事を共有し、解決策を考え合う場面も見られた。

また、最後のセッション時には音楽療法士のピアノ演奏で参加者全員で歌唱し、特別なセッションとなった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・里親同士がお互いの距離を縮め、コミュニケーションをより円滑に進めることのできるよう、アイスブレイクを楽しく、交流が深めることのできるものを実施した。

- ・里親のこれまでの養育経験や子育ての悩み、困難を聞き取り、里親が話しやすい雰囲気や思いが表出できる時間を十分に持てるよう工夫した。

- ・休憩時間内もファシリテーター・オブザーバー・スタッフが里親同士のコミュニケーションの中に入り、交流が深まるよう援助した。

- ・里親自身がすぐに解決できない問題行動（不登校・医療問題等）に関しては、児童家庭支援センターaidをはじめ医療機関や児童相談所、学校等の関係機関への相談や里親同士の相談等、一人で抱えこまない「一緒に子育て」を、プログラムの実践を通して理解してもらえよう努めた。

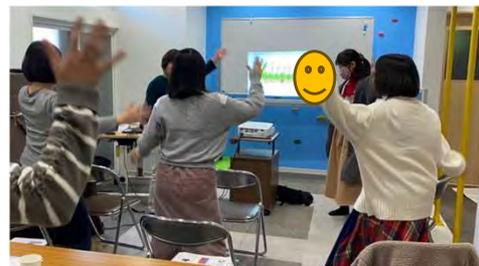
- ・ファシリテーター自身が里親であり現在も養育里親であることを生かし、これまでの経験を交えたプログラムを行うことで、受講者がFCPのスキルを具体的に理解でき家庭での実践意欲が高まるようにした。

○まとめと課題

今回初めてフォスタリングチェンジ・プログラムを実施したが、予想よりも多くの里親の方の参加があった。プログラム終了後のアンケートでは、子どもとの関係性に関して「良い」「とても良い」に8名全員の回答が得られた。

プログラム後半には、研修の後、里親同士で子どもを含めて遊びに出かけたりする姿が見られた。また、プログラムを重ねるごとに里親自ら子どもの問題行動について語り合いその対処の方法を考える場面が増えていった。フォスタリングチェンジ・プログラムへの参加が、里親同士の交流のきっかけを後押しし、一人で悩まなくてもいいという仲間意識を深めることになったと思われる。

今回初めての取り組みであり、講座の準備やファシリテーターの事前学習が十分であったとはいえない。今年度、既に数名の参加希望があることから、フォスタリングプログラムの必要性を感じており、令和5年度の振り返りをもとにより一層充実したプログラムを実施し、里親養育者を支援していきたいと考えている。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨

くずはの森、子育て・発達の里 乳児院ひまわり
田村 由美子 笹本 弘美 松土 裕美 市川 千絵

- 【実施主体】 社会福祉法人 子育て・発達の里 乳児院ひまわり 社会的養育機関エール
 【実施期間】 2024年1月9日～2024年4月2日（毎週火曜日） 10:00～13:00
 ※2月6日積雪のため延期
 【実施場所】 子育て・発達の里 乳児院ひまわり 社会的養育機関エール 会議室
 【参加里親】 4名（養育里親4名）
 出席率83%
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名

○実施状況

山梨県では8回目の実施である。今年度は、新人のファシリテーター3名、（保育主任、心理士、里親支援専門相談員）の開催となった。参加者同士が顔見知りということもあり関係づくりもスムーズにできた。児童相談所里親担当がオブザーバーとして参加しつながりが多く持てる良い機会にもなった。参加者は、回数を重ねていくごとに会話も増え仲間意識が強くなっていったように感じられた。

○プログラム時に工夫したこと

以前までの反省点や参加者の意見等を参考に、翻訳された専門用語などをより分かりやすく親しみのある言葉を使って表現し説明をした。ロールプレイではそれぞれの参加者の日常生活に沿ったテーマや、名前を使うことや日常で起こりやすい題材を選ぶなどイメージしやすいように取り組んだ。また、参加者へのプレゼント等にフラワーパワーの画像を多く使い、持ち帰ったことで日常生活の中でフラワーパワーのことを思い出してもらうよう工夫した。



○まとめと課題

冬の開催期間中に積雪の影響で当初の予定より実施期間が伸びたが、無事にすべてのプログラムを終えることが出来た。参加者4名の委託児の年齢が近かったことから、すぐに打ち解け悩みの共通部分も多く相談や質問等しやすい様子が見られた。ベテラン里親の経験や以前の悩み等を聞くことで、参加者同士が悩みを話し合う中で養育感を認め励まし合う温かい雰囲気を実施することが出来た。セッションの中では養育困難といわれる子どもの行動やそれに伴う子どもの心など心理面で具体的なアドバイスを行うことも出来、参加者からは「心理的側面からのアドバイスが聞けてとても勉強になった。」と感想があった。

今後の課題としては、開催時期が年度末になったことや天候の影響で延期になったことから新年度にずれ込んでしまった。里親同士の関係を配慮しすぎたこともあり、ロールプレイは人を変えず固定にしてしまった。次回からは色々な里親同士が関わられるよう変えていきたい。

セッション中、参加者がセッション内容から離れて自分の話をする場面が多く、困惑している参加者もいたためスムーズに話を切り替えられるようにしていきたい。

修了式の際、フラワーカード以外で参加者への手土産やメッセージを多く用意したため参加者にとってはフラワーカードが印象に残らなかった。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in長野

うえだみなみ乳児院フォスタリングチーム
大川 裕里恵 丸山 桃子

- 【実施主体】 うえだみなみ乳児院フォスタリングチーム
- 【実施期間】 2023年9月1日～2023年11月17日（毎週金曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 篠ノ井交流センター（10回）／千曲市市民交流センター（2回）
- 【参加里親】 3名（養育里親1名、養子縁組里親1名、乳児院職員1名）
出席率94%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名
スタッフ3名（内1名は児童家庭支援センタースマイル職員）

○実施状況

公募方法は、参加募集チラシを2つの児童相談所管内の里親さんへ配布してもらったが、期日までに参加者が集まらなかった。その後、里親さんと施設職員へ個別に声掛けをし、3名の参加者での開催となった。勉強したいけれど、12週連続参加する事は難しいという声が多かった。

会場は飲食可能だったので、毎セッションの休憩時間にコーヒーとおやつを食べながらリラックスする事ができた。プログラム終了後には参加者とスタッフで食事会を行った。

○プログラム時に工夫したこと

養育里親、養子縁組里親、乳児院職員と種別が違う事と、3人と人数が少なく意見があまり出ない事があり、ファシリテーターだけでなくスタッフもグループのメンバーという事を意識して参加者で話題が出ない時には、スタッフに話題を振る事もあった。

また、中間評価で出た意見を後半のセッションで活かせるようにした。例えばセッションの内容が深掘りできなくて残念という意見に関しては、その時々で説明で疑問に感じている事はないか聞くようにした。セッション評価表記入の時間が少ないという意見には、一度セッションを終了した後も記入できる時間を取るようにした。



○まとめと課題

種別が違う3人の参加者であったが、セッションを重ねる毎に親しみを持った関係になっていった。一人の参加者は里親登録最後の年となり、更新はせず里子も委託解除に向けてという事で、委託解除に向けてどんな事ができるのか、振り返りを全体で共有する事ができて良かった。児童家庭支援センターの職員にも手伝ってもらい、機関連携も出来て良かった。

また、参加者からはFCPを通して孤独でいる必要はないと感じた、里親サロンで学んだ事を話す機会を作ろうと思う。コースで学んだスキルを実践して大人も子どももストレスが少なくなった、受講後問題と思う行動があまり気にならなくなったなどの感想があった。受講前と受講後の変化を感じる事が出来、少ない人数ではあったが実施できて良かったと感じている。

今後の課題は12+（思春期版）を今後検討していく事と、他の地域でもFCPが共通理解として広まり、実践できると良いと感じる。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡

特定非営利活動法人 静岡市里親家庭支援センター
佐野 多恵子 清水 道広

- 【実施主体】 特定非営利活動法人 静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 2023年5月11日～2023年7月20日（毎週木曜日） 9:30～12:30
- 【実施場所】 静岡市児童相談所
- 【参加里親】 5名（養育・養子縁組里親5名、児童相談所職員1名）
出席率 96%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名、オブザーバー3名(各1回)

○実施状況

2017年の初回開催から年1度の実施を継続してきたが、2020年～2021年の2年間は新型コロナ対策として中止を余儀なくされた。2022年度に再開。2023年度はマスクを外しての実施。静岡市は体系別研修プログラムにFCPを組み込んであることから、就園後から小学校中学年までの里子（養子）を養育中の里親（養親）を対象に5名が参加。各研修における参加対象年齢を明確にしてあるため、里親は養育中の子どもの年齢でFCP受講のタイミングは見通せる仕組みである。また、今年度は静岡市からの委託事業として位置付けられ児童相談所の職員1名も本プログラムに参加。合計6名で実施する運びとなった。

○プログラム時に工夫したこと

養育・養子縁組里親の参加者5名のうち2名が特別養子縁組をしている。社会的養護（出身）のこどもであるという点では、参加者がFCPで使う各方略とも有効である。ファシリテーターはそれぞれのこどもたちの縁組に至る経緯や状況、現在の様子などを把握したうえで、プログラム中にはその子どもの状態に適した言い回しを工夫した。また、家庭での実践ではひとりひとりがより身近に我が事として取り組めるよう落とし込んだ上で持ち帰ってもらう工夫をした。ファシリテーターは積極的にマスクを外し説明やロールプレイを実施した。表情や雰囲気などの非言語のメッセージも含めて参加者に伝えることができたと感じる。更に、前年度の参加者にオブザーバーとして出席してもらったことで、ファシリテーターとはちがう視点でのFCPの有効性・有用性を参加者に感じ取ってもらうことができた。

○まとめと課題

ファシリテーターに加え、オブザーバーからの経験談や参加者同士の話し合いを多く取り入れたことでセッションを重ねるごとに里親子の関係性が改善され、里親（養親）の子育てに対するマインドが良い方向に変化したと感じた。

FCP修了者からFCP12+の実施を期待する声が聞かれる。実施できるように努力したい。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in三重

会福祉法人 名張厚生協会 名張養護学園 里親支援専門相談員 政本 高志
 社会福祉法人 名張厚生協会 里親なんでも相談所「ほっこり」 大畑 尚子
 社会福祉法人 名張厚生協会 里親なんでも相談所「ほっこり」 上村 郁美

- 【実施主体】 フォスタリング機関支援事業受託機関
里親なんでも相談所「ほっこり」
- 【実施期間】 2024年1月11日～2024年3月28日（毎週火曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 ふっくりあホイスコーレ
（住所：三重県伊賀市四十九町字上教免2026-1）
- 【参加里親】 4名（養育里親1名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名、親族里親1名）
出席率81%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名、オブザーバー5名（見学含む）
保育1名（スタッフ・オブザーバー兼務）

○実施状況

三重県で4年ぶりに実施。ファシリテーター3名は初めての実施であった為、実施実績のある開催地へ見学に行くことから開始する。参加者が想定以上に集まらなかった為、県下のフォスタリング会議のたびに関係者に案内を行った。また、里親相互交流会の場でFCPお試し版を実施し、本プログラムを受講してほしいと呼びかけた。三重県児童相談センター、県内のフォスタリング機関支援事業受託機関（以下、F機関）、里親支援専門相談員の協力により、4名の受講者を得た。

○プログラム時に工夫したこと

- ・12月中旬より毎週水曜日9:30～10:30をFCP企画会議と位置づけ、他の予定を入れずFCPIに集中する時間を作った。企画会議では原則2週先のセッション準備をした。
- ・座席をファシリテーターが事前に決め、参加した里親同士が交流を深められるよう工夫した。

○まとめと課題

- ・F機関が受託している4事業の実施状況や実施機関への見学、周知等を考え、1月～3月に実施した。会場は、地域の社会福祉法人に協力を求め、障害者福祉施設の北欧風のホールを借りることができた。FCPで使用する茶菓子は会場を借りた法人が作業所で制作するパン・クッキーを提供した。
- ・参加者からは、「前向きになれた」「終わってしまうのが寂しい」といった声があった。
- ・養育の困りがあるが、就労しており3ヶ月間は参加できないという声を聞いた。より多くの里親が参加しやすい方法及び日程設定が課題である。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in京都

京都府家庭支援総合センター 大戸 淳志
 みねやま福祉会 峰山乳児院 宮下 恵
 みねやま福祉会 てらす峰夢 坂田 綾乃
 盛和福祉会 乳児院京都大和の家 土出 亮子

【実施主体】 京都府家庭支援総合センター
 【実施期間】 2023年10月3日～2023年12月26日（毎週火曜日） 9:30～12:30
 【実施場所】 京都府南丹保健所 講堂
 【参加里親】 4名（養育里親1名、養子縁組2名、ファミリーホーム1名）
 出席率96%
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名
 【フォローアップ】 2024年3月5日

○実施状況

京都府内で一番北にある乳児院と児童養護施設、一番南にある乳児院、それぞれの里親支援専門相談員と両施設からも離れている児童相談所の里親養育支援児童福祉司が協力し、京都府として初めて実施した。里親同士がセッションを重ねるごとに打ち解け、積極的に発言していく姿に、ファシリテーターも引っ張られ、みんなが火曜日を楽しみに感じていった3か月となった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・京都さとおやグループ「しゃべりいぬ」と、みんなでグループ名を付けて、このグループに愛着を持つようにした。
- ・喫茶コーナーに金木犀を飾ったり、ハロウィーンやクリスマスの飾りつけをして、季節感を取り入れて楽しんだ。
- ・6回目を終えた時点で、各セッションのワークや家庭での実践結果の記録にファシリテーターのフィードバックを添えた資料を渡し、自分たちの成果や学習を見返せるようにした。
- ・ロールプレイが具体的にイメージできるように、設定をしっかり作り上げた。

○まとめと課題

- ・参加した複数の里親が以前から受講していたと思っていた研修ですと話し、実施後の満足度も高かったことから、ニーズの高さを感じた。
- ・ファシリテーターもプログラムを通して、他の里親にも受講してもらいたいと思える内容が多く、様々な里親に受講していただきたい研修であると実感した。
- ・府内にはフォスタリング機関が無く、ファシリテーター同士の物理的距離もあるため、開催場所が限られている。また職員の異動等があれば継続開催が困難になってしまうため、今後の実施体制の構築が課題。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in京都

社会福祉法人 積慶園/里親サポートセンター青い鳥 西村 孝子
 社会福祉法人 積慶園/乳児院積慶園（里親支援専門相談員） 白崎 明美
 社会福祉法人 積慶園/きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ)
 武田 由 / 青木 千容

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
 【実施期間】 前期2023年6月22日～10月27日（毎週木曜日） 10:30～13:30
 後期2024年1月11日～3月28日（毎週木曜日） 9:30～12:30
 【実施場所】 前期 乳児院 積慶園 SUN・燦・家
 後期 ほっとはぐ2階和室
 【参加里親】 前期 4名（施設職員1名、養子縁組1名、FH養育補助者1名、
 養育1名）出席率 83%
 後期 3名（養育里親1名、養子縁組1名、FH養育者1名）
 出席率100%
 【参加体制】 前期、後期 ファシリテーター2名

○実施状況

今年度は、2回の実施となり、合計7名の受講者が修了した。

前期は、6名の受講者でスタートしたが、時間調整が難しく、欠席者にはフォローしながら進めたが終了まで受講できたのは4名となった。それぞれに立場が違うところでの養育の大変さを共有し、互いに思い合う関係性も見られた。セッションを重ねるごとに受講者自身が実践に工夫をしながら取り組まれる姿もたくさん見られ充実した時間となった。

後期は、受講者数が3名であったため、じっくり話を聞く時間が持てた。FCP受講が2回目となる里親が2名参加されたが、その内1名は対象児が前回とは異なるため、プログラムに参加すること自体が、里親にとって有効な時間となっていた。また他の1名も子どもとの関係に課題を感じていたため、有意義であった。

○プログラム時に工夫したこと

前期は実施場所が市内の端にあるため遠方からの受講者に負担がかからないように開始時間を遅めに設定し、休憩時間に軽食を用意した。実施日に都合が悪くなった受講者が出たときは受講者全員で日程変更調整に協力したり、全セッションを受講するためのフォローの時間を作った。

後期は、受講者が少ない分、一人でも予定日に参加できない時は、新たに日程を調整し、すべてのプログラムに全員が参加できる状況を作る工夫を行った。子どもの体調不良で現地での参加が難しいときは、オンラインでの参加を工夫した。

○まとめと課題

実践を重ねていく中で、里子との関係性が好天的に変化する本プログラムの良さを実感する。特に、課題の大きい里子への里親の思いの変化が嬉しかった。ただ、参加している間はモチベーションも保てるが、終了すると忘れてしまうといった声もあり、定期的に、フォローアップを継続する必要性も感じた。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪

里親子支援機関えがお（里親）牧野 博子
 児童養護施設 大阪西本願寺常照園 高橋 宗近
 里親子支援機関えがお（里親）井上 直美 田邊 雅子
 児童養護施設 南河学園 横山 泰直

【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお
 【実施期間】 2023年5月2日～2023年7月18日（毎週火曜日） 10:00～13:00
 【実施場所】 富田林市民会館（富田林市）
 【参加里親】 5名（養育里親3名、養子里親2名）出席率96%
 【参加体制】 ファシリテーター5名、スタッフ1名、オブザーバー11名

【実施期間】 2023年9月5日～2023年11月21日（毎週火曜日） 10:00～13:00
 【実施場所】 富田林市民会館（富田林市）
 【参加里親】 5名（養育里親5名）出席率78%
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー5名

【実施期間】 2023年9月9日～2023年11月25日（毎週土曜日） 10:00～13:00
 【実施場所】 浄土真宗 常光寺（吹田市）
 【参加里親】 6名（養育里親4名、養子里親2名）出席率96%
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ8名、オブザーバー4名

【フォローアップ】 大阪府全修了生対象64名 ①6月22日1名 ②9月14日3名
 ③9月21日6名 ④11月28日3名⑤6年1月23日4名 3月中 実施予定

○実施状況

今年度は12歳以下を5月から1会場、9月からは同時期2会場、合計3回開催。1月からの12歳以上は募集人員を満たさず中止。今年度も地域密着型を実施。参加者からは「近くて参加しやすい」との感想が寄せられる。さらに地域の里親からの善意で毎週お弁当及びスイーツが運ばれ参加者に大変好評であった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・外国籍の参加者のためにPPにルビをふり、模造紙へはひらがなで記入した。
- ・欠席が3回を超えた参加者には努力賞をお渡しし、欠席があまりに多かった方には再履修を促すための招待状をお渡しした。
- ・ファシリテーターのロールプレイは動画撮影して、欠席者への補講に活用した。
- ・開催地域の大学の学生と施設の里親支援員に保育スタッフを担ってもらった。
- ・タイムキーパーマニュアルや模造紙整理箱を作成したり、実際に里子を養育している経験を伝えたりすることで理解を深めていくことに努めた。

評価

子どもの変化 4.2/5
 対処する自信 3.8/5
 関係性 4.4/5

○まとめと課題

FCP修了生の里親2名がファシリテーターに加わり2コースを担当した。自身の実践や体験を交えた内容は高評価を得た。また、オブザーバーで児相CW（7名）の参加を得られたことが、未受講の里親への周知と参加のきっかけになると期待したいところである。更に、他府県の実施予定機関（4団体9名）の方にオブザーバー参加していただき、当団体も他府県に赴いて情報交換させてもらうことで良い刺激をいただいた。一方、補講は、研修内容の質の担保とファシリテーターの負担を両立させる難しさに直面し、検討すべき課題と感じた。

フォローアップ研修においては、今までの復習を行うとともに現在困っていることを話し合った。そのなかで今まで培ってきたスキルが共通言語として飛び交い、安心感を与えることができた。

役に立ったスキル
 ストッププラン&ゴー3票
 アテンディング3
 効果的に褒める2
 ご褒美・ご褒美表2
 アイメッセージ2
 選択的無視2
 明確で穏やかな指示2
 ABC分析2



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in広島

広島乳児院

竹内 まり子 藤井 菜月 藤本 真紀 大田 直枝

- 【実施主体】里親支援センターからふる 広島市児童相談所
- 【実施期間】2023年9月5日～2023年11月28日（毎週火曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】広島修道院
- 【参加里親】6名（養育里親1名、養子縁組4名、ファミリーホーム1名）
出席率93.2%
- 【参加体制】ファシリテーター4名 オブザーバー1名
- 【フォローアップ】2024年2月20日

○実施状況

広島県西部こども家庭センターから今年度業務委託となり、広島市児童相談所との共催で今年度5回目の開催となった。ファシリテーターの有資格者が施設内に5名おり、そのうち4名で今年度ファシリテーターを行い、きずなの前田施設長をオブザーバーとして開催。里親月間と重なった事で、ファシリが集まって綿密な打ち合わせをする事が難しく、個々で内容を理解し行った。

○プログラム時に工夫したこと

- ・県、市の児相と一緒に受講里親の選出の所から、プログラム終了の振り返りまで通して連携、協力できた。
- ・プログラムを欠席された方には、フォローアップを1時間から1時間半で行った。来院の難しい方は、ZOOMも活用した。
- ・小学生の里子さんが不登校で、毎回里親さんと一緒に来院し、託児を行った。
- ・里子さんの問題が出た時期と重なり、里親さんの悩みや相談に寄り添えた。

○まとめと課題

- ・毎回のアンケートに、具体的に分かりやすかった記載、もう少し学びたかった記載が記され、分かりやすかった。
- ・最後のセッション12の前に1週休憩を挟んだが、後半になるにつれて、里親さんの疲れが見られてきた。
- ・昨年度同様モチベーションの高い里父母の参加で、回を重ねるごとに親和性が高くなり、講義内容の深い理解につながる意見交流が盛んだった。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in山口

里親養育サポートセンターれりーふ 田坂 仁 藤井 有紀
山口育児院 中内 圭一

- 【実施主体】 山口県こども家庭課
- 【実施期間】 2023年9月15日～2023年12月8日（毎週金曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 防府海北園 地域交流スペース真
- 【参加里親】 5名(養育里親2名、養子縁組1名) 施設職員2名
出席率 85%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名
- 【フォローアップ】 2023年6月23日(金)10:00～13:00
(2018～2022 年度受講者対象)
2024年3月8日(金)10:00～12:00開催予定
(2023 年度受講者対象)

○実施状況

全セッション対面で実施。会場は県央部。予定していたファシリテーターのうち1名が退職したことで、急遽初めて実施するファシリテーターが加わった。

○プログラム時に工夫したこと

毎年、受講者からは他のメンバーからのフィードバックを聞くことがとても楽しみであるという感想があることもあり、フィードバックでは、指定した時間より早く話終わった方については、他のメンバーを巻き込みながら、質問をして話を掘り下げたり、他にどのような方法があるか一緒に考えてみるなどした。

メンバーそれぞれの性格や精神面に配慮し、開始前や終了後に個別に説明したり、話を聞く時間をとるなどの対応をした。

○まとめと課題

開催案内はセッション開始の5ヶ月前に発送したが、申し込みがあったのは、昨年度申し込みセッション1受講後から家庭の事情で欠席が続き、次年度受講し直すことを希望されていた方。他2名の里親については、個別に説明、声掛けをし、受講に至った経緯もあり、今後も個別に受講勧奨することが申込数の増加につながるのではないかと考える。

プログラム開催期間中に、里親が児相から一時保護で受託することがあり、欠席や急遽連れて来られることがあったが、今回はファシリテーター以外のスタッフを置くことができなかったため、託児はれりーふの職員で対応した。今後は、プログラム期間中、可能な限り里親が受講できるよう、スタッフの配置を行いたい。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in佐賀

佐賀県里親支援こねくと 事務局
 児童養護施設 聖華園 土坂 典寿
 乳児院 みどり園 池邊 加奈子
 児童養護施設 洗心寮 古川 三十里 新宮 理沙

- 【実施主体】 佐賀県里親支援こねくと、佐賀県里親支援専門相談員、訪問支援員
- 【実施期間】 2023年9月21日～2023年12月14日(毎週木曜日) 10:30～13:30
- 【実施場所】 佐賀県SAGAパラスポーツセンター 会議室
(佐賀県総合福祉センター敷地内)
- 【参加里親】 4名(養子・養育里親2名、養育里親1名、ファミリーホーム補助者1名)
出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名

○実施状況

佐賀県では4回目の実施。今回のファシリテーターは新たなメンバーで実施に臨んだ。受講者4名と少人数だったため、振り返りや質疑応答の時間を多く取ることができ、受講者同士、ファシリテーターとの親睦を深めることができた。

みなさん経験年数は浅い方ばかりだったが、積極的に質問され、みなさんの向上心や熱意を感じ取ることができた。

○プログラム時に工夫したこと

- ・リラックスして参加できるように、温かく心地よい雰囲気づくりに心掛けた。
- ・家庭での実践に積極的に取り組んでもらえるように、グループLINEを利用して声掛けを行った。週の途中で進捗状況の確認を行い、質問を受け付けた。
- ・プログラムで出てきた用語や方略についてまとめたものを壁に張り、分かりやすい説明を心掛けた。また難しいセッションでは時間を取りながら、それぞれの理解進度に配慮して時間配分を考えた。
- ・セッション終了後にも個別で質問を受け付けた。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in長崎

光と緑の園 乳児院 三浦 奈利子
光と緑の園 向陽寮 田添 貴子
聖母の騎士園 福島 真由美
児童家庭支援センターびいどろ 田川 亜希

- 【実施主体】長崎県里親育成センター すくすく
- 【実施期間】2023年9月20日～2023年12月13日（毎週水曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】光と緑の園 子育て支援ハウス おひさまハウス
- 【参加里親】7名（養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組4名）
出席率91%
- 【参加体制】ファシリテーター4名、スタッフ1名
オブザーバー7名（里親SW）、託児保育士2名
- 【フォローアップ】第1回 2023年6月7日（水）、第2回 2024年1月17日（水）

○実施状況

令和4年度は実施しなかったのが2年ぶりの開催となった。8名の申し込みがあり家庭訪問を実施したが事情により1名がキャンセルになった。他に3ヶ月の期間中児童の通院等で欠席が予測されたが意欲があったので事前事後に対応することとし参加してもらった。

ファシリテーター4名で実施前日にデモンストレーション、実施後に評価と次回の打ち合わせを行った。保育園利用をしていない里親の参加もあったので託児を行った。

○プログラム時に工夫したこと

グループワークの組み合わせ用に数種類のカードを作成した。グループ分けでも盛り上がる事が出来た。参加者からセッション1「グループの決まり」の話し合いでグループの名前を決めたいとの意見があり、参加者の名前の頭文字を合わせたグループ名を決めた。参加者のチームワークに繋がった。

○まとめと課題

参加者からはこのコースで影響を受けたこととして「心にゆとりが出来るようになった」「子どもと自分自身も褒めるなどのプラス思考が増えた」のコメントがあり里親の変化がみられた。また、20代前半の若い里親の参加があり幼少期の体験談や養育感にジェネレーションギャップを感じた。幅広い年齢層への対応力が求められる。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in熊本

養育家庭支援センター きらきら 田中 一幸
 フォスタリング機関 アグリ 三村 瑠里
 特定NPO法人 優里の会 池上 里美

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジ・チーム熊本
 【実施期間】 2023年9月14日～2023年11月30日（毎週木曜日） 10:00～13:00
 ※11月23日が祝日のため11月24日（金）に実施
 【実施場所】 フォスタリング機関アグリ
 【参加里親】 6名（養育里親5名、養子縁組1名）
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名（※1人は託児担当）

○実施状況

今回は里父3名、里母3名の6名で実施。内2名は以前FCPを受講された方の配偶者であった。また養育経験も1年程度から10年程度の方まで、委託されている児童の年齢も幅があり様々な声を聞くことができた。様々な事情で欠席される方もいたため、毎回同じメンバーでセッションを行うことができなかつたが、参加されている方が毎回積極的に、楽しく、気楽に発言できる雰囲気を作り出すことは出来た。回を重ねる毎に参加者同士のつながりも深くなり、最終日には参加者同士でお疲れさま会を開かれるなど親和性は高まった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・毎セッション毎の事前の準備は、ファシリ全員でマニュアル・資料を読み込み、使用するフリップチャートの作成など丁寧に行った。
- ・参加者が同じくらい話せる時間の確保。※お話し好きな里親さん、お話しが苦手な里親さんがいたため。
- ・参加者のその日の気分なども配慮し毎回安心して参加できるように席は自由にした。一方、ロールプレイでは全参加者同士がペアになるように配慮した。
- ・フィードバックはフリップチャート（模造紙）を毎回活用し文字に起こし視覚的にわかりやすくした。
- ・欠席の里親さんには後日zoomを活用し対応。
- ・託児を行った。※育児休暇中で時間があるためプログラムに是非参加したいという希望に応えるため。

・ファシリテーターの人選（女性のみ、男性のみ、男女混合とするか、各フォスタリング機関から一名ずつ選出するか、ファシリの性格・経験など）

○まとめと課題

- ・欠席者が多い場合、グループの親和性やモチベーションを保つことの難しさを感じる。また、欠席者は参加できなかったセッションについて補講をしたが内容理解が不十分であるのではと心配な面がある。同時に補講をするための日程調整も難しい。
- ・仕事の忙しさ等で子どもと関わる時間がなかなかとれず、家庭での実践にあまり取り組めていない方（特に里父）もいた。また、実践報告の記録をされておらずに、口頭だけの発表になってしまう方もいた。
- ・熊本では3つのフォスタリング機関が合同でFCPを開催しているため、募集範囲が県全域と広い。今回は、遠い方は片道2時間程度かけて参加されており、集まることへの負担が大きいと感じる。しかし、合同で開催しなければ実施のために必要な人数が集まらない。
- ・スライドの解釈が難しく、ファシリテーターによって捉え方が異なることもあり、解釈の擦り合わせが大変。
- ・例に出てくる名前に馴染みがなく変更できないか、との意見があった。
- ・参加者のプログラム終了後の予定もあるため、プログラム終了時間を厳守するための時間調整。



2023 フォスタリングチェンジ・プログラム in大分

乳児院栄光園

本庄 公多子 松井 美穂 衛藤 真弓 齊藤 光里
 児童養護施設小百合ホーム 御手洗 隆史
 児童家庭支援センター「和」 山本 さやか
 児童養護施設光の園 奥部 陽子
 児童家庭支援センター「陽」 永山 真江

- 【実施主体】 社会福祉法人栄光園 乳児院 栄光園（大分県委託事業）
- 【実施期間】 2023年10月5日～2024年1月18日（毎週木、金曜日） 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人栄光園 児童養護施設 栄光園 心理棟
- 【参加里親】 4名（養育里親4名）
出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター8名

○実施状況

今年度は養育里親4名が参加した。夫婦での参加や昨年は里父が参加し、今年は里母が参加するなど夫婦でフォスタリングチェンジプログラムに取り組む里親が増えており、関心も高くなっている。

○プログラム時に工夫したこと

- ・ロールプレイは、テーマによって里子の年齢が近い里親同士で組んでもらうなど、家庭での実践のイメージがつきやすいようにした。
- ・口頭の説明で、なかなか理解が難しい里親には、ロールプレイ時にファシリテーターが側に付き、個別に説明をしながら実践してもらった。
- ・前回のおさらいとして、学習内容をまとめた「ニュースレター」を参加者に渡し、家庭でも振り返りができるようにした。



○まとめと課題

参加者は回を重ねるごとに親しくなり、プログラムの共有や子育ての情報交換もできており、良い雰囲気になっていた。

複数の里子を養育している里親は、対象の里子以外のことについての悩みを聞いて欲しい様子があり、話を聞きつつプログラムに繋がられる部分があれば繋げていくようにした。

また、事あるごとに「プログラムの決まり」を伝えていくようにし、チームでの研修であることを確認していった。



ファシリテーターフォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度はオンラインにて計3回開催されました。

オンライン開催

▶**第一回目** 2023年6月12日 参加者10名

参加地域：神奈川、福井、長野、三重、京都、鳥取、佐賀

▶**第二回目** 2023年9月11日 参加者8名

参加地域：東京、富山、長野、福岡、大分、沖縄

▶**第三回目** 2024年2月13日 参加者33名（内見学者2名）

参加地域：栃木、新潟、青森、三重、神奈川、東京、大阪、広島、山口、福岡、熊本

参加者ご感想

- ・みなさんの前向きな実践報告が聞けるので、毎回楽しみにしている。
- ・他機関の様子を伺うことで、様々な工夫や実施のヒントをいただくことができた。また、セッション内容についても、毎回「このセッションの意図は」という軸を確認できることが大変勉強になる。
- ・先生方より丁寧にコメントを頂けた。他施設の実施報告を伺い、同じような悩みや課題がある事が共有できた。
- ・同じ年代に受けた方々とお話し出来る機会があると嬉しい。報告を受けるだけでなく、互いに良かったことや難しかったことを話せる機会もあると良いと思った。

考察

今年度も昨年に引き続きオンラインでの開催となり、第3回目は過去最多の参加人数となった。これらは、全国的にもFCPの実施が広がり、2回目以上の実施回数を経験している機関も増えている傾向であることが言える。複数回経験しているファシリテーターが参加いただくことで、これから実施に向けて動いている機関にとっては、このフォローアップミーティングでの意見や工夫点、情報交換はとても貴重な内容となっている。その他、今後の需要として、FCP12+思春期版の参加者も増えると思料している。

コンサルテーションデイ

フォスタリングチェンジ・プログラムの開発のメンバーであるキャシー・ブラッケビー氏(Kathy Blackeby)とキャロライン・ベンゴ氏 (Caroline Bengo)が、実践について公開コンサルテーションを受ける機会としてコンサルテーションデイを行っています。今年度は、6月にてオンラインで開催され、20機関から25名の参加者が集まりました。

参加者ご感想

- ・他機関の実践を聞いて学ぶことができた。キャシーとキャロラインの直接指導を受けることができた。
- ・「いかに強化するために私たちが何ができるのか」という問いを、みなさんと一緒に考えられる時間の共有は心強いものだった。
- ・kathyとcarolineの言葉かけや、温かさがしっかり伝わってきたので、里親さんとFCPを通して向き合う覚悟ができた。

考察

今回は、日本でのFCP実施状況の報告を基に、キャシー氏・キャロライン氏からコメントとアドバイスをいただく内容となった。代表で発表いただいた栃木県と佐賀県のFCP実施状況はキャシー氏とキャロライン氏から「どの側面をとっても高いクオリティのもので素晴らしいものだ」と高評価をいただいた。また、スキルトレーニング選択的無視について、具体的に説明をしていただき大変興味深く、貴重な時間となった。

プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、計19カ所（北海道、青森、岩手、栃木、東京、神奈川、富山、山梨、長野、静岡、三重、京都、大阪、広島、山口、佐賀、長崎、熊本、大分）の受講者126名に対して、調査を実施致しました。

◆最も役に立つと思った考えやスキル（1人5つまで回答可。回答者197名）

スキル名	回答数
・アテンディング	77名
・効果的に褒める	62名
・選的無視	47名
・リフレクティブ・リスニング	43名
・その他	42名

◆子どもの行動の変化（5段階評価 1ひどくなった⇔ 5大変よくなった）

実施場所22か所の合計 対象児（回答者117名） 平均点 4.15点／5点満点
 実施場所22か所の合計 きょうだい児（33名） 平均点 3.82点／5点満点

関係性

- 大人に頼れるようになった ●約束を守ることが前より出来るようになった。
- 手伝いをするが増えた。相談してくれるようになった。
- 自分から今日の出来事を話すようになった。●ハグの回数が増えた。

感情調整

- 感情のコントロールが出来るようになった。●いじけることが少なくなり、以前より落ち着いて自分の意見が言えるようになった。●気持ちの切り替えが少し出来るようになった。●落ち着いて話が聞けるようになった。●片付けをしたら絵本を読んでくれる？など行動⇒結果⇒報酬のプロセスを踏むようになった。

行動

- 自分で行動できるが増えた。●動画を見る時間を自分で決めて、それを守るようになった。●指示のあと、すぐ動くようになった。●一緒に遊ぼうと誘いに来るようになった。●嫌な事があっても代替行動が出来るようになった。●物に対して少し優しく扱えるようになった。●暴力的行動が減った。

学校

- 学校に行き渋りがあったが、楽しく学校に行けるようになった。
- 朝、目安の時間に出発できるようになった。
- 積極的に宿題をやるようになった。●前より学校の事を話してくれる。

その他

- スムーズに入眠できるようになった。
- 家族に優しくなった。●表情が優しくなってきた。
- 「ありがとう」が増えた。●興味関心が増えた。

◆里親と里子の関係性（5段階評価 1:とても悪い ⇄ 5:とても良い）

実施場所22カ所の合計（回答者114名） 平均点 4.36点／5点満点

- 母子の信頼関係が強くなった。「お母さん大好き」「がんばっているね」「～してほしい」と先に言うようになり、頼られることが多くなった。
- 子どもとの距離感が保てるようになった。子どもが起きている困難を自分の事と重ねてしまい辛かった。答えをだすのではなく一緒に考えれば良いのだと思えるようになった。
- 思春期であり距離を置いていたが、実践を通して以前より関係が深まった。子どもの不安感や不満を知ることによって改善していくきっかけになった。
- 私の理想・目標ではない。子どものニーズを再認識することでイライラしたり、ため息が出る時間が無くなった。笑顔でよく話したりする時間が増えた。
- お互い素直に意見を言い合えるようになった。信頼関係がアップした。
- 子どもの良いところに目がいくようになり、具体的に褒めることが多くなったので、子どもも自分も必然と笑顔が多くなったように思う。

◆里親として感じ方への影響

内省

●子どもの困り事はみんな同じようであって、親側の捉え方で同じ問題でも大きく感じたり小さく感じたりすることがあると分かった。相談することの大切さを感じた。●子どもや自分の目の前の状況を、まずはそのまま受け止めようと思えるようになった。以前は「～しなきゃ」「何が原因？」と思って、それができない自分を感じたりしていたと思います。●考え方や物の見方が変化したと思います。子供がする事には理由があって、その理由をじっくり考えてみようかなと思うようになりました。●今までは子どもの問題行動を親権に悩むことがありましたが、良い事に目を向けて褒めることで、問題行動が減ったのは、驚きでした。子どものすることにより深くに悩まなくなりました。●当たり前のこと、自然にしてきたことの意味づけを振り返ることで、より効果的に関わることができるようになり、自分が変化することで子どもに影響が及ぶということを実感できた。

変化

●私自身が変化することで、子どもの行動に変化が生まれてくることを感じた。・子どもとの接し方を学んで、冷静に子どもを観察できるようになった。●肯定感や自分を褒めるなどのプラスの思考が増えました。●子どもに対して感情的ではなく理論的に考えることができるようになった。●できないところへの注目が、できることへの注目に変わった。子どものことをよく見ることで可愛いと思うようになった。・子どもに対して叱る回数が増えた。●問題行動に効果的な対処方法を知ったことで心の余裕が少しできた。子どもの良いところを探す習慣がついた。

自信

●里親として何が出来るだろうか？施設の方が良くしてくれるのではないかという思いがありましたが、里親には里親の役割があって自信を持っていいんだと思いました。●専門性に欠けており、自信の無かった私にとって、たくさんのスキルを学ばせてもらい、自信に繋がりました。●これまで手探りでやってきたことに自信が持てるようになった。

仲間

●他の里親の話をお聞きすることで、悩みが同じであったり、学ぶことが沢山あり自信をもらえました。それと同時に反省もありました。●同じような悩みを持った方や先輩が居る事を知ったので、子育てに前向きになれたり、課題に挑戦する気持ちになりました。できなくても大丈夫、ゆっくりと考えられる様になりました。●里親としてだけでなく、子育てする中で正解はないものの、対処の方法として選択肢が増え、知ることが出来たことが良かった。不安なことはまだまだあるけれど、知識と仲間が出来たことは大きいと思う。●子どもの言動に落ち着いて対応できる。困った時は相談出来る仲間が出来て心強い。

◆家庭訪問を受けたことでどう役にたったか。（複数回答可）

回答者（103名）	回答数
a. 全く役に立たなかった	1名
b. コースに参加することに自信が持てた	49名
c. 里親として支援されていると感じた	78名
d. ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった	42名
e. その他(自由記述)	14名
<ul style="list-style-type: none"> ●コースに参加する自覚が持てた。前向きな気持ちになれた。 ●私たちの生活環境を理解していただけたことで、私たちが話しをしている時に、さらっと補足説明をしてくれたり、悩みをすばやく理解していただけて、心強かったです。すごくありがたい時間でした。 ●研修で行う内容が分かった。 ●心が軽くなった。親しみを感じた。 ●自分の現状を知ってもらえてうれしかった。 ●家庭内のことや、子どもの事（事情や状況）を知っていると思うと、相談しやすくなったり話しやすくなる効果を感じられました。 	



2023度の実践と今後の課題

| SOS子どもの村JAPAN/広島国際大学 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラム（以下FCP）は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度福岡と熊本でスタートし、全国地域へ広がってきていますが、2020年からの新型コロナウイルスの流行により、各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況となりました。FCPIは、時期の検討や消毒、安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより各地域で実施の努力を続けてきました。今年度は、新型コロナウイルスは「5類」の分類となりましたが、諸対策は継続しつつ、全国22地域で実施され、そのうち2地域では、複数回の実施となっています。

ファシリテーター養成については、2019年度より日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を実施することができるようになりました。2020年からは、オンラインによる講座（4日間）でしたが、昨年度、2月開催講座を対面で実施し、改めて対面の良さを実感することができました。しかし、受講しやすいオンラインに比べ4日間の出張による日程や交通費をどのように確保できるかも改めて課題となりました。そのため、今年度は、1月末2日間対面、1週間後2日間オンラインというハイブリッド形式で実施しました。参加のしやすさと、FCPとしてのコミュニケーションの重要性、雰囲気体験はできたのではないかと思います。しかし、ロールプレイなど実践を含むプログラムはもっと対面で体験したいという要望も大きいため、24年度はさらに実施法について検討工夫していく予定です。

各地域での里親さんへのFCPIについても、遠距離地域への実施課題があります。オンライン使用や対面との組み合わせ等による実現性についてさらに検討を進めていく予定です。ファシリテーターフォローアップミーティングは、すべてオンラインにより4回実施しました。ファシリテーターには年1回の受講を推奨していますが、いずれのミーティングも定員いっぱいの申し込みがありました。今後も全国各地で実施されるFCPが質の保証された研修であるためには、ファシリテーターの質の保証が必須であり、さらにシステムづくりとネットワークを構築していくことが必要と考えています。

2024年度には、児童福祉法の改正施行として、各自治体に里親支援センターを設置し、リクルート、研修、支援が総合的に支援されるようになるシステムが進みます。委託後研修であるFCPの必要性、重要性がさらに増してくるのではないかと思います。里親委託の推進は、里親支援と両輪で行う必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPIは、それらに対して里親自身が自ら工夫し取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修として位置づけられ、各地でさらに実施されることを願っています。



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



一般社団法人 無憂樹